

どんな研究？

- 膨大なメディア情報（音や映像）の自在な検索や活用の基礎となる，メディアからの情報抽出技術
- 数理的枠組みの構築，斬新な特徴の開拓，心理学的知見の利用など，特色あるアプローチ

もたらされる変革

- 音を構成要素に分解し特徴的な性質を取り出す
- 演奏は異なるが同じ旋律の音楽を検索
- 映像中の重要部分に自動的に着目する
- メディアデータの利用頻度でナビゲーション

展示紹介

- 音や映像の信号から様々な情報を取り出す技術を体験型展示で紹介
 - 音響信号のスパース表現 [亀岡ほか]
 - 自己類似度特徴による音楽の類似度測定 [泉谷ほか]
 - 未登録物体の自動検出と学習 [木村ほか]
 - 大規模メディアデータのリンク構造解析 [黒住ほか]
- 昨年度行ったメディア探索技術の実験結果を報告
実証実験結果報告



連絡先： 柏野邦夫
メディア情報研究部
メディア認識研究グループ

検索などのためにメディア（音・映像）の信号から情報を引き出そうというとき、一体どんな情報を引き出したり扱ったりすればよいのでしょうか。

自動車、鈴木さん、などといった私たちが日常用いている物事や概念が取り出せれば便利ですが、このような情報を音や映像そのものから自動的に取り出すことは容易ではなく、その実現には着実なアプローチが必要です。

私たちは、メディアから引き出すべき情報について「抽象度」と「スコープ」の2つの観点でとらえ、特に低～中抽象度の情報に着目して研究を進めてきました。

今回の展示項目5件は、それぞれが各研究領域の柱をなすことが期待される重要なテーマを扱っています。そしてこれらを骨組みとして発展させることで、将来、メディア情報をその内容に基づいて瞬時に検索して自在に楽しめる世界を実現するための扉が開かれると考えています。

メディアの世界：引き出す情報／扱う情報

